

令和 2 年度 地域ごとのヤクシカ捕獲頭数【モニタリング ID10 関連】

1. モニタリング計画での位置づけ

- (1) 管理目標： II 植生の垂直分布に代表される貴重な生態系が維持されていること。
- (2) 評価項目： D 生態系が維持されていること。
- (3) モニタリング項目： ヤクシカの動態把握及び被害状況把握
- (4) 評価指標： 10 地域ごとのヤクシカの捕獲頭数
- (5) 評価基準： 捕獲頭数が適正な生息密度維持のために、寄与していること。

2. 調査方法

令和 2 年度の捕獲状況について、屋久島町産業振興課、鹿児島県自然保護課、屋久島森林管理署及び屋久島森林生態系保全センターより情報提供いただき、また、環境省の事業捕獲結果を加えて、可能な限り場所を特定できるデータを抽出して整理した。更に過年度の状況と比較を行った。

3. 調査結果

(1) 令和 2 年度捕獲状況

捕獲実施場所は、過年度と同様に島の周縁部が主であり、中標高帯以上での捕獲はほとんど実施されていない。

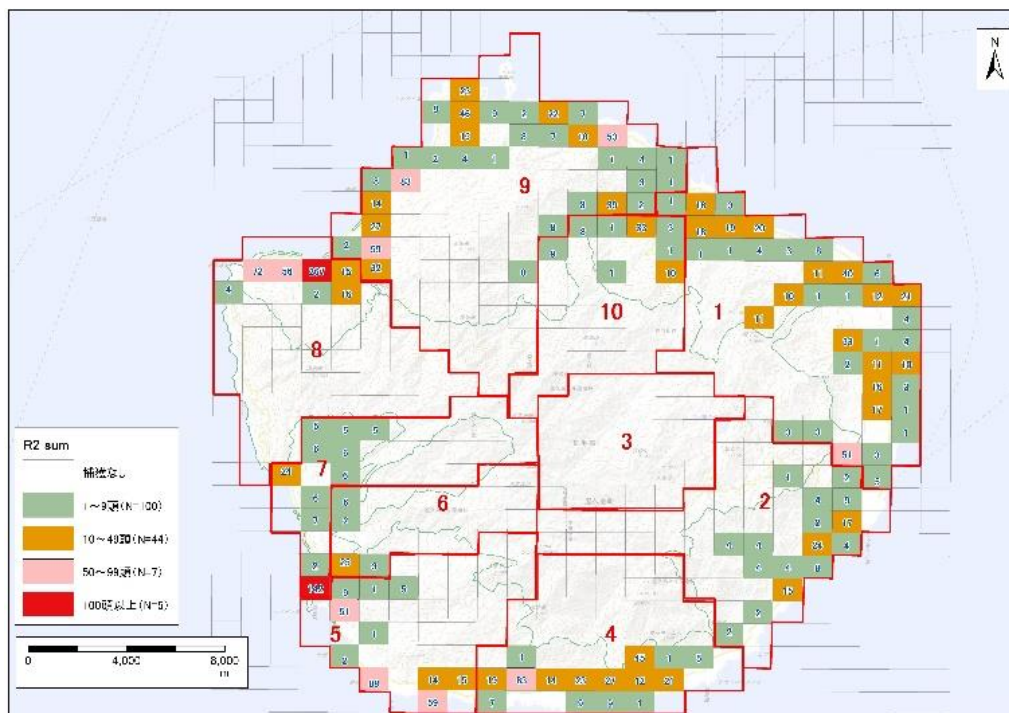


図 1. 令和 2 年度捕獲頭数

(2) 各年度の捕獲状況

捕獲は主に屋久島辺縁部の低標高地域を中心に実施され、捕獲数は平成 26 年度を最大として以降は減少した。

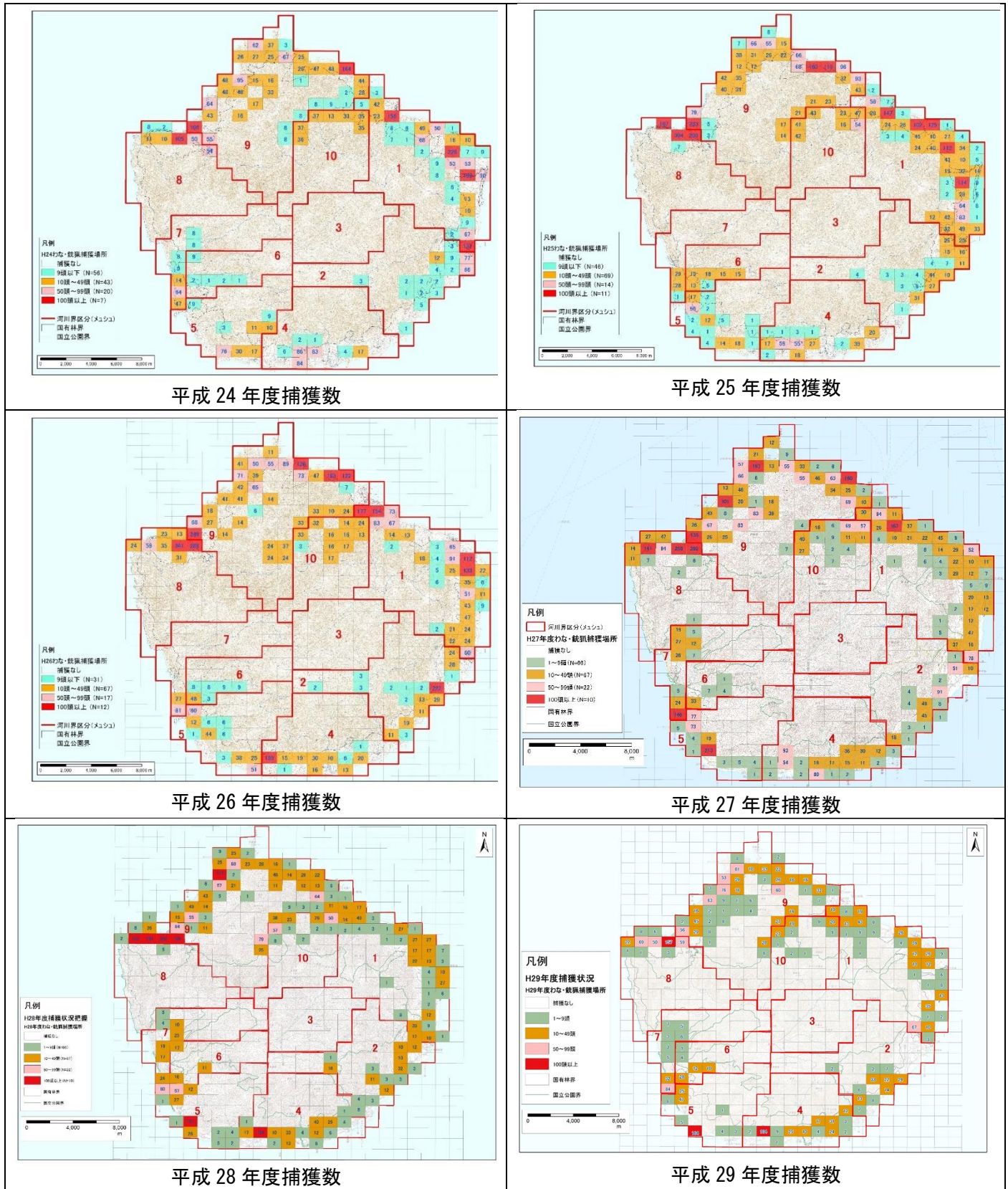


図 2 平成 24 年度から令和 2 年度までの捕獲数の経年変化 (1/2)

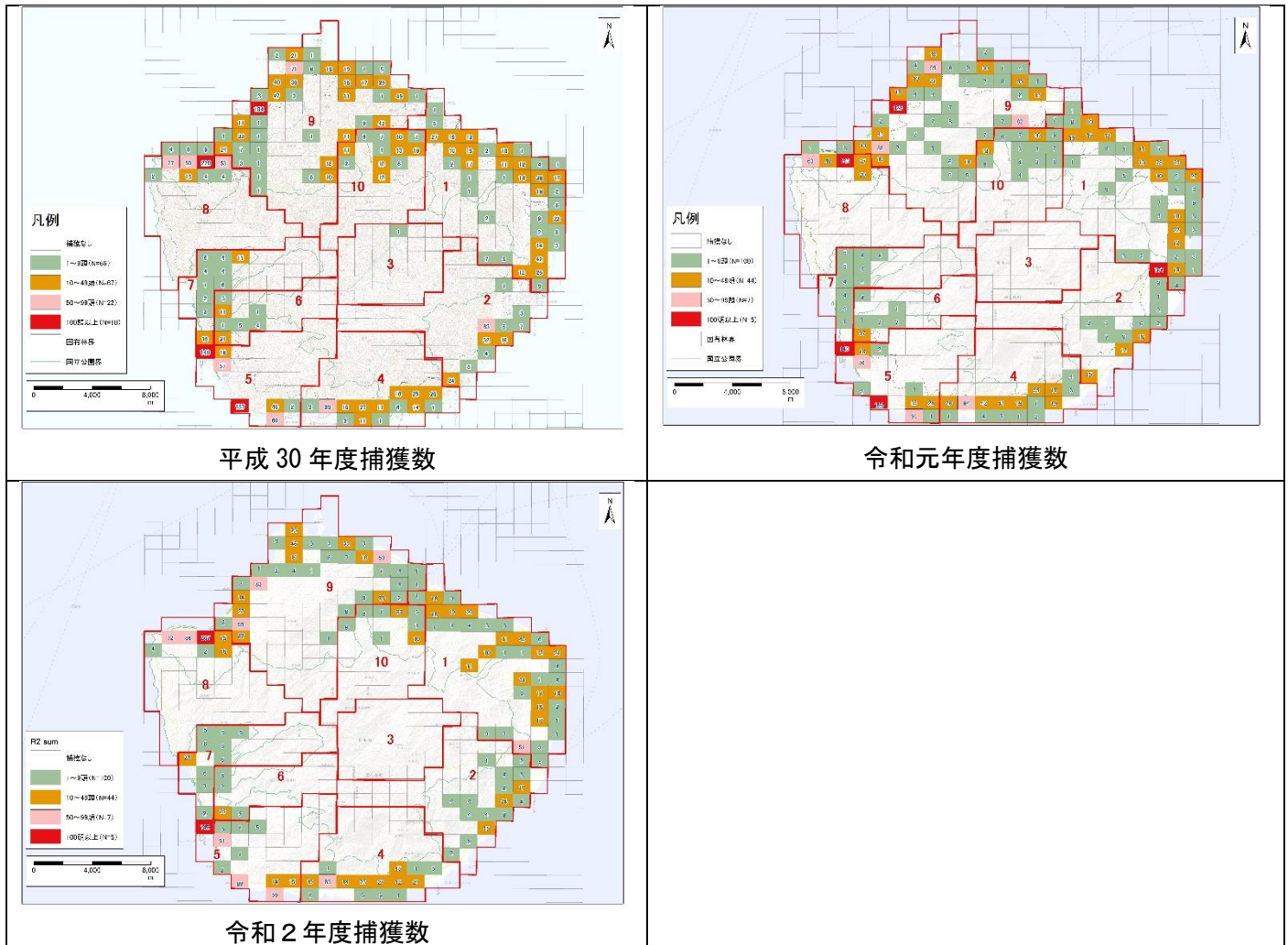


図 3 平成 24 年度から令和 2 年度までの捕獲数の経年変化 (2/2)

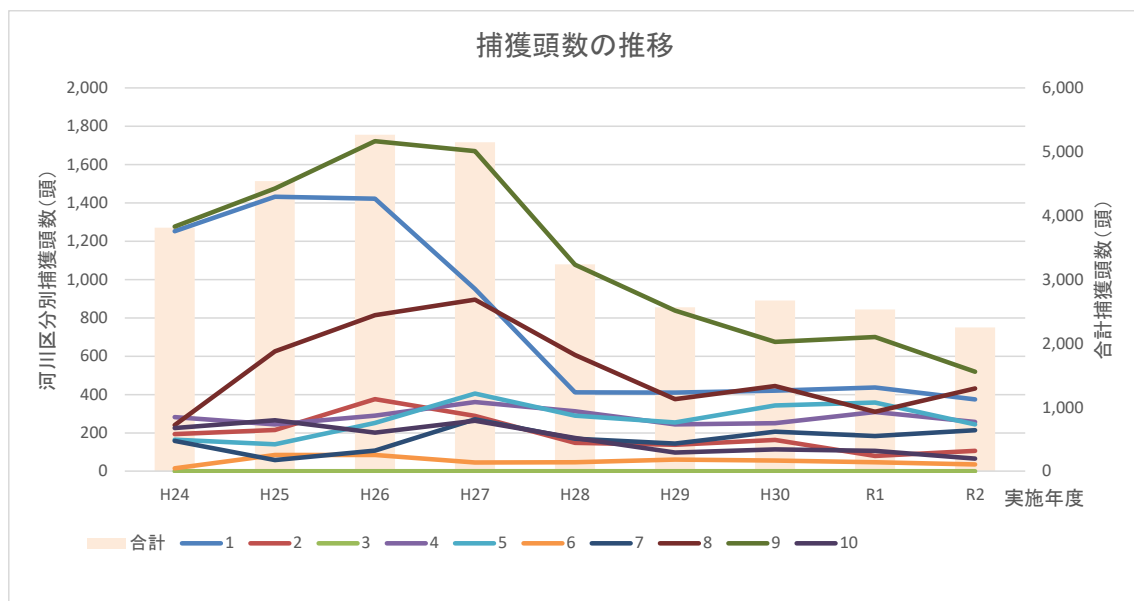
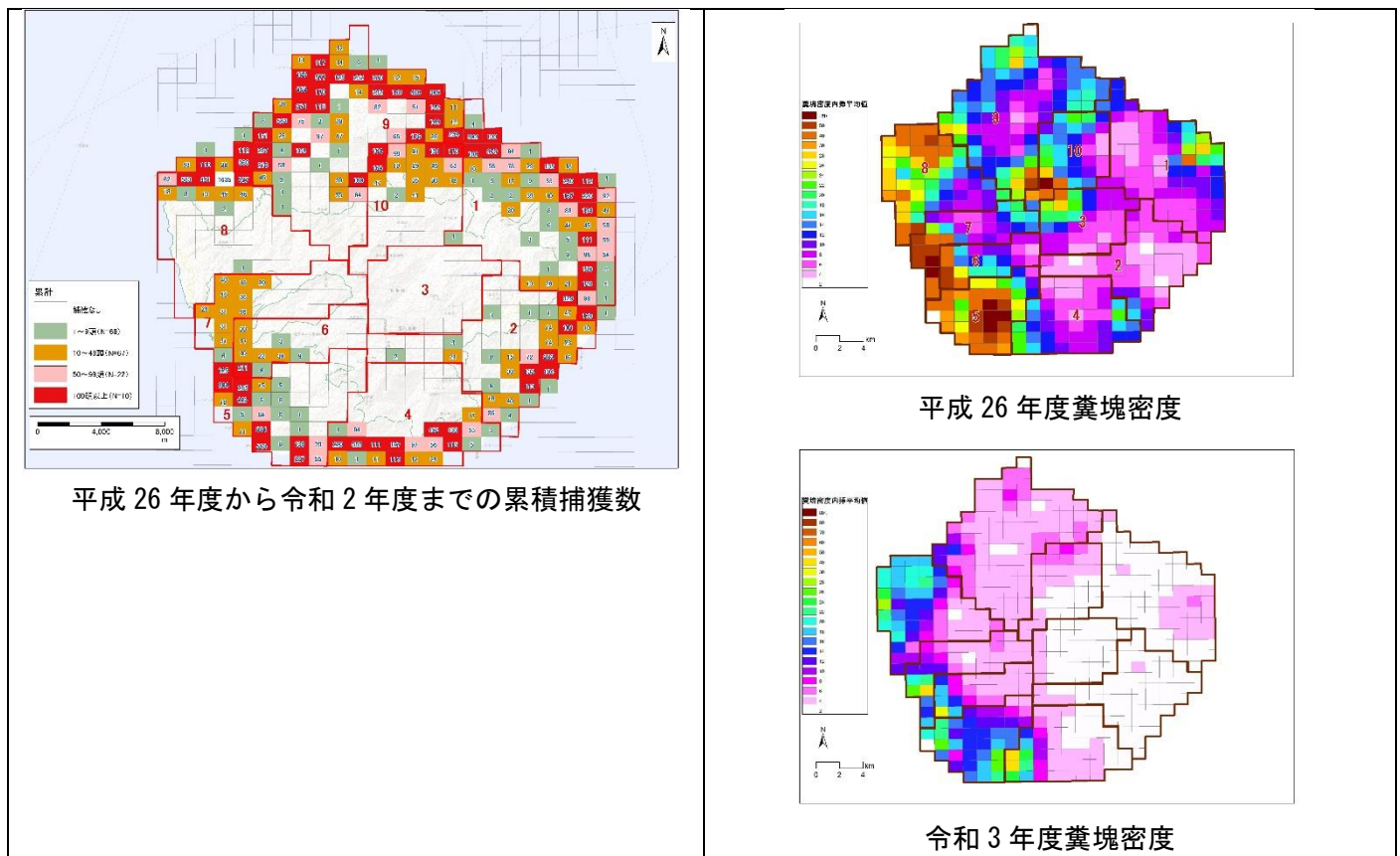


図 4 河川区分ごと及び屋久島全体の捕獲頭数

(3) 捕獲圧の影響

ヤクシカの捕獲効果を検証するため、捕獲頭数と糞塊法による生息密度の変化を比較した。河川界区分ごとの生息密度は、糞塊密度調査結果の内挿値の結果から各河川界区分内の平均値を算出して使用した。

図 5 累積捕獲頭数と糞塊密度の比較



糞塊密度調査を開始した平成 26 年度から令和 2 年度までの累積捕獲数と糞塊密度を比較すると（図 5）、継続的に捕獲が実施された西部地域を除く屋久島辺縁部の低標高地域では相対的に低い値まで糞塊密度が減少した。また、捕獲が実施されていない屋久島中心部の高標高地域や西部地域においても糞塊密度は減少し、屋久島全体で捕獲の効果が影響していると考えられる。

河川区分ごとの捕獲頭数と糞塊密度をグラフにまとめた（図 6）。

河川界区分ごとの糞塊密度は、河川界区分によっては途中一時増加がみられたものの、平成 26 年度と令和 3 年度を比較すると全ての河川界区分で減少し、捕獲圧を継続的に与えたことが糞塊密度の減少につながったと考えられる。

また、捕獲が行われていない河川界区分 3 においても減少が見られたことから、捕獲は捕獲地周辺にも糞塊密度減少の効果を示していると考えられる。

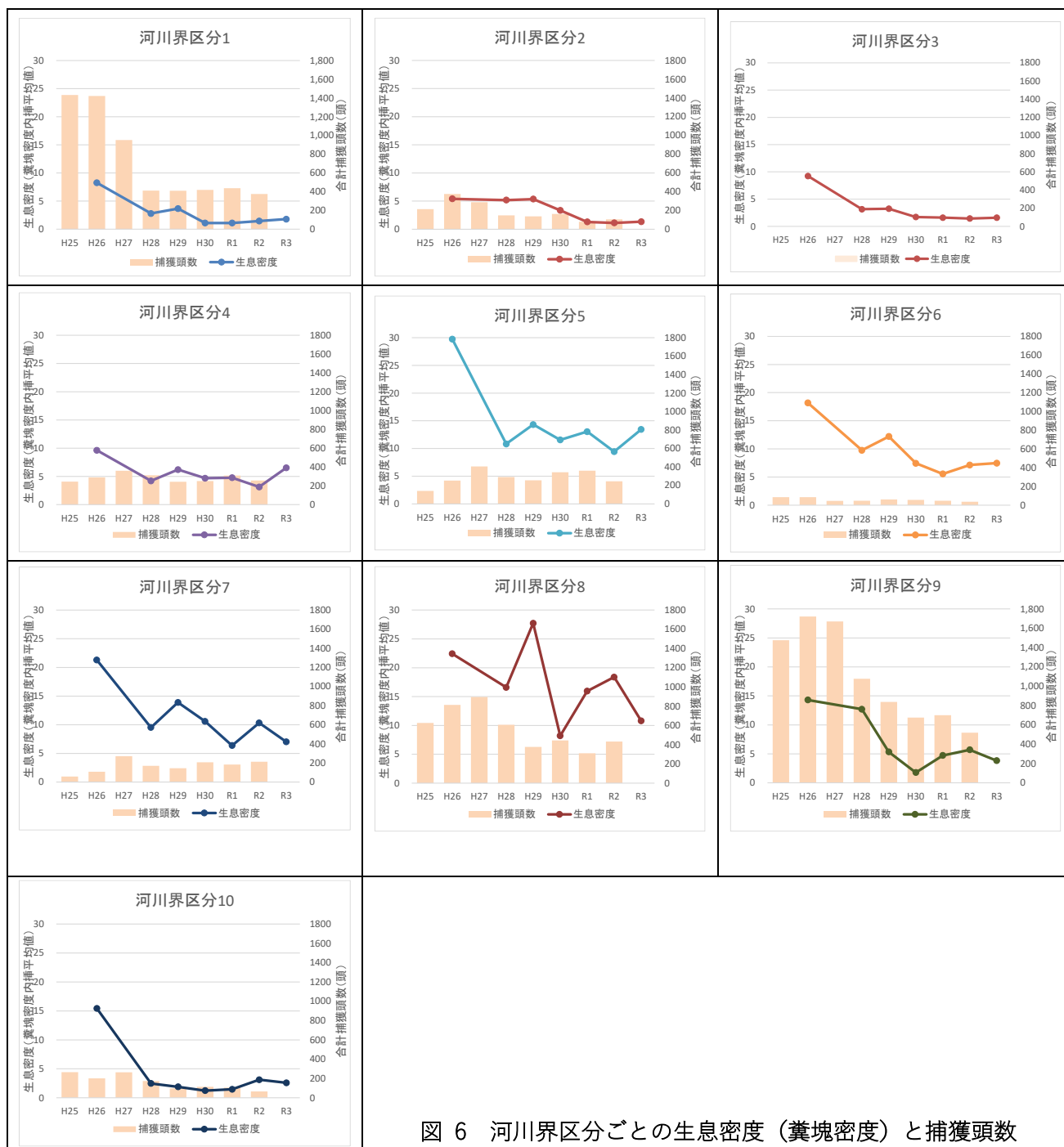


図 6 河川界区分ごとの生息密度（糞塊密度）と捕獲頭数